

宮城県の沿岸漁船漁業を取り巻く課題と目指すべき方向性

海洋環境	社会情勢	漁業者の状況	国・県の施策
<ul style="list-style-type: none"> ●親潮の北偏と黒潮の蛇行の双方の強い影響 ●本県沿岸で漁獲される魚種、来遊時期の変化、漁獲の不安定化 	<ul style="list-style-type: none"> ●激甚化・頻発化する自然災害 ●海洋環境保全や資源保護への関心の高まり ●ロシア・ウクライナ情勢の影響 	<ul style="list-style-type: none"> ●高齢化・就業者の減少による担い手の減少 ●燃油・資材価格の高騰、冷水性魚種の不漁による経営の悪化 	<ul style="list-style-type: none"> ●漁業法改正による資源管理の強化(MSYの達成、TAC魚種の拡大) ●スマート水産技術の活用

宮城県の沿岸漁船漁業の目指すべき方向性	
方向性Ⅰ	海洋環境の変化に柔軟かつ迅速に対応できる操業体制の構築
方向性Ⅱ	高付加価値化による収益性の高い漁業経営の確立
方向性Ⅲ	スマート水産技術等を活用した省力化や生産性の向上

転換・対策の実施見込みによる類型化

類型	実施見込み	転換・対策の内容(例)
類型1	すぐに取り組み可能	<ul style="list-style-type: none"> ●ワカメ養殖等との兼業化 ●トラフグ・タチウオはえ縄 ●定置漁業の期間延長 ●モウカザメはえ縄
類型2	技術的な課題の解決により取り組み可能	<ul style="list-style-type: none"> ●小型底びき網漁船による回遊魚の漁獲 ●仙台湾保護区の見直し
類型3	資源や漁法について実現可能性の検討が必要	<ul style="list-style-type: none"> ●ヤリイカ・ケンサキイカ釣り ●サバ等短期畜養出荷 ●メカジギ縦はえ縄・メカトラップ
類型4	漁業調整上の課題や法令等の整備に時間を要する	<ul style="list-style-type: none"> ●マイワシ特別採捕許可の拡充 ●カタクチイワシ(しらす)許可の拡充 ●許可漁業等の区域・条件見直し ●定置漁業の期間延長(今後調整)

漁業種類・地区の地域特性に応じた転換・対策モデル一覧

- ▶ 新たな操業体制への転換や対策について、漁業の概要や地域特性、経営の状況と課題などを考慮の上、地区・漁業種類ごとに6パターンの具体的なモデルとして例示するもの

漁業種類・地区	転換・対策モデル
北部・中部漁船漁業(19トン)	【類型1】モウカザメはえ縄
北部・中部漁船漁業(10トン)	【類型1】ワカメ養殖等との兼業化 【類型3】メカ縦はえ縄・トラップ、ヤリイカ等イカ釣り
中部漁船漁業(金華山以南)	【類型1】タチウオ・トラフグはえ縄
南部漁船漁業(仙台湾)	【類型2】仙台湾保護区等の見直し
小型底びき網漁業	【類型2】回遊魚の漁獲、仙台湾保護区等の見直し
定置網漁業	【類型3】サバ等短期畜養(天然種苗提供) 【類型1、4】期間延長

転換・対策モデル

北部・中部漁船漁業(19トンクラス)

漁業の概要と特性(小型さんま漁船)

- ▶ 海流の変化による産卵場・生育場の沖合化によりさんま資源量が減少
- ▶ 漁場が公海の遠隔地となり小型さんま船による操業が困難
- ▶ 特異船型のため柔軟な転換が難しい

経営の状況と課題

さんまからの転換を視野に夏～秋漁の対策が課題

転換・対策モデル

- モウカザメはえ縄漁業への転換【類型1】
 - ・資源量と単価が比較的安定しているモウカザメを対象としたはえ縄漁業
 - ・大臣許可を取得しての200海里外での操業も想定

モウカザメはえ縄漁撈設備

北部・中部漁船漁業(10トンクラス)

漁業の概要と特性

- ▶ イサダ、コウナゴ、突棒、サヨリ船びき網、かご、秋サケ・タラ刺網など、季節に応じて複数の漁法を組み合わせる操業
- ▶ コウナゴと秋サケの水揚げは皆無の状態が続いている
- ▶ 漁法の組み合わせパターンが複数存在するため、複数の対策が必要

経営の状況と課題

春漁、秋サケの減収対策が課題

転換・対策モデル

- ワカメ養殖等との兼業化【類型1】
 - ・R5年漁業権切替で漁場拡大、ワカメ養殖等との兼業化
- メカジギ縦はえ縄・メカトラップ【類型3】

ワカメ養殖施設

中部漁船漁業(金華山以南)

漁業の概要と特性

- ▶ コウナゴやアナゴを主体にワカメ・カキ等の養殖業との兼業が多い。
- ▶ かご漁への着業者が増加したことにより操業トラブルが発生
- ▶ 船数が多く、経営規模の差も大きいため、複数の対策が必要
- ▶ 仙台湾での操業調整が必要

経営の状況と課題

春～夏漁の代替対策が課題

転換・対策モデル

- タチウオ・トラフグ漁(はえ縄)への着業【類型1】
 - ・刺し網・定置網等で漁獲が増えているタチウオ・トラフグの漁法の転換で高単価化

はえ縄漁具

南部漁船漁業(仙台湾)

漁業の概要と特性

- ▶ 5トン前後の漁船で、多くが周年で刺網専業で、ヒラメ、カレイ等の底魚や、スズキ、サワラ、タチウオなどの回遊魚を漁獲
- ▶ 近年は、ヒラメやカレイの資源量が低下
- ▶ 夏～秋には、スィムシ(ヨコエビ)による食害の影響で、操業海域の制約や漁具の敷設時間の短縮を余儀なくされている。

経営の状況と課題

ヒラメ、カレイ類の代替対策が課題

転換・対策モデル

- 保護区設定の再検証など【類型2】
 - ・仙台湾保護区の見直し

敷設から揚縄までの数時間でスィムシの食害が発生

小型底びき網漁業

漁業の概要と特性

- ▶ 仙台湾で板びき網による操業。稼働船は10ト未満船が多い。
- ▶ 中部地区漁船はランプ網との兼業船が多く、仙台湾の沖合でチダイ、タチウオ、サバなどの回遊魚も漁獲対象とする。
- ▶ 亘理地区漁船は、仙台湾内の使い分け漁場内でヒラメやカレイの底魚を狙った操業が主体

経営の状況と課題

ヒラメ、カレイ類の代替対策が課題

転換・対策モデル

- チダイ、タチウオ等回遊魚漁獲(亘理地区)【類型2】
- 底魚資源回復のための資源管理措置【類型2】
 - ・仙台湾保護区の効果検証・見直し

仙台湾4カ所の保護区

定置網漁業

漁業の概要と特性

- ▶ 北部: 餌用のイワシ類、秋サケを主な対象に春～冬に操業
- ▶ 金華山周辺等の大型定置: サバ、マイワシを主な対象にほぼ周年操業
- ▶ 南部: 秋サケを主な漁獲対象とする小型定置が多い。

経営の状況と課題

秋サケ不漁、イワシ等の時期の変化への対策が課題

転換・対策モデル

- 操業期間の延長・周年化【類型1、4】
- サバ等の短期畜養出荷(天然種苗提供)【類型3】
 - ・短期畜養による付加価値向上・出荷の平準化等